

## 1. 和文原稿と英文原稿との執筆要領の違い

原稿は和文または英文のいずれかとする。和文原稿は2以降にしたがう。英文原稿は、英文誌 Simulation & Gaming: An International Journal に準ずるものとする。

## 2. 投稿時の書式と文章の体裁

可能な限り刷り上がりイメージと同様のフォーマットにて作成する。具体的には、

- ・ 用紙はA4判とし、1頁あたりの行数は50行とする。
- ・ (または')に示す構成要素のうち、本文前までは1行51文字の1段組とする。
- ・ 本文以降、ゲームやソフトウェアの出典までは1行26文字×2段組みとする。
- ・ 英文要約以降は、再び1行51文字(半角102文字)の1段組とする。

論文、速報、解説は次の構成要素をその順に配置する。なお、括弧内に分量等が指定されている場合は、その指定にそって記述する。

- ・ タイトルおよび空行(10行分)
- ・ 和文要約(400字程度)
- ・ 日本語キーワード(原稿全体の内容の特徴を表す語句5つ程度)
- ・ 本文
- ・ 謝辞(必要な場合のみ記述)
- ・ 参考文献
- ・ ゲームやソフトウェアの出典
- ・ 英文要約(175ワード程度)
- ・ 英語キーワード
- ・ 付録
- ・ コメント、書評・紹介、文献紹介は、次の構成要素(分量)をその順に配置する。
  - ・ タイトルと執筆者名
  - ・ 空行(3行分)
  - ・ 本文
  - ・ 参考文献

・ ゲームやソフトウェアの出典

文章は、新仮名遣いと常用漢字を用い平易な口語体で記す。句読点は「,」「.」を用いる。論文、速報、コメント、解説については、表現形式を「である」調に統一する。

## 3. 本文

本文は、序論(はじめに、など)、本論、結論(結び、など)の順に記述する。

本文は、章、節の区別を明確にし、それぞれ「1」、「1.3」、「1.3.2」のように番号をつける。必要に応じて「(1)、(2)、…」などを併用してもよい。

人名は、原則として原語で表記する。

図・表(写真も図として扱う)は、実際に印刷される大きさに配慮した内容・記述とする。また、著者の責任で鮮明なものを用意し、本文中の該当箇所に文章とは分けて埋め込む(必要に応じて、図表部分を1段組にしてもよい)。その際、各図表には「図1」、「表1」のように通し番号をつけ、図の場合は図の下に、表の場合は表の上に、表題とともに当該図表番号を記載する。また、当該図表を参照している本文文章中にも図表番号を記述する。なお、図表番号の部分はゴシック体(英文の場合は太字)を使う。

注を記入する場合は、一連番号を本文中の参考箇所右肩に小さく<sup>(1)</sup>のように書いた上で、注記文を本文末尾にまとめて記述する。

## 4. 参考文献

本学会の学際性を考慮し、文献名については略称を極力さける。

参考文献の引用は例にならぬ、著者の姓、発表年を書く。

著者が1名の場合

- ・ 関(1997)は...
  - ・ ...が紹介されている(関1997)。
- 著者が2名の場合
- ・ 市川・中村(2003)は...s
  - ・ ...が紹介されている(市川・中村2003)。
  - ・ Abowd and Mynatt(2000)は...

- ・ ...が紹介されている (Abowd & Mynatt 2000)  
著者が3~5名の場合  
最初のみ全員、次回以降は和文献の場合はら、  
英文文献の場合は et al.
- ・ 関・広瀬・山田 (1997) は... (初出).  
関ら (1997) は... (2回目以降)
- ・ Klabbers, Scheper, Takkenberg, and  
Crookall (1989) は... (初出)  
Klabbers et al. (1989) は... (2回目以降)
- ・ ...が紹介されている (Klabbers, Scheper,  
Takkenberg, & Crookall 1989).  
著者が6名以上の場合  
初出から和文献の場合はら、英文文献の場合は et  
al.

#### 同著者複数文献の参照

- ・ 関 (1997, 1998) は....
- ・ ...が紹介されている (関 1997, 1998).

#### 異なる著者による同時複数文献の参照

- ・ ...が紹介されている (関 1997; 広瀬 1997).

本文中で参照した文献は、本文末尾に参考文献としてまとめる。参考文献は、著者のアルファベット順、年代順に記す。同一著者の同一年の文献は、引用順に a, b, c...を付して並べる。日本語文献の論文名は「 」、書名・雑誌名は『 』でくくり、著者名 (出版年)「論文名」、編者名『書名』、出版社名、章番号、ページ、あるいは、著者名 (出版年)「論文名」、『雑誌名』、巻(号)、ページ、のように表す。英語文献の書名、雑誌名はイタリック体とし、書誌情報の記述順序は日本語文献にならう。

#### 和雑誌掲載論文等

市川 新・中村美枝子(2003)「ゲーミング専門語の中核編纂の試み」、『シミュレーション&ゲーミング』, 13(2), 198-209.

#### 和書掲載論文等

広瀬幸雄(1997)「仮想世界ゲームとは何か」, 広瀬幸雄編『シミュレーション世界の社会心理学』, ナカニシヤ出版, 第1章, 11-23.

#### 和書

植田一博・岡田 猛 (2000)『共同の知を探る 創造的  
コラボレーションの認知科学』, 共立出版.  
英雑誌掲載論文等

Wolfe, J. (1997) The Effectiveness of Business Games in  
Strategic Management Course Work, *Simulation &  
Gaming*, 28(4), 360-376.

Abowd, G. D., & Mynatt, E. D. (2000) Charting Past,  
Present, and Future in Ubiquitous Computing, *ACM  
Transactions on Computer-Human Interaction*, 7(1),  
29-58.

#### 英書掲載論文等

Teach, R. D. (1992) Global Changes in Business and  
Economics. In Crookall, D., and Arai, K. (Eds.) *Global  
Interdependence: Simulation and Gaming Perspectives*.  
Springer-Verlag, 259-262.

#### 英書

Klabbers, J. H. G., Scheper, W. J., Takkenberg, C. A. Th., &  
Crookall, D. (1989) *Simulation-Gaming: On the  
Improvement of Competence in Dealing with  
Complexity, Uncertainty and Value Conflicts*. Pergamon  
Press.

#### WWW から入手した文献

著者名 (出版年)「論文名」, URL のように表す。出  
版年の部分は、情報が発信された年が特定できる場合  
はその年を記載し、特定できない場合は、その情報の  
所在を確認した日時を記述する。

Casey, M. J., & Austin, M. A. (2005.6.12) Semantic Web  
Methodologies for Spatial Decision Support,  
<http://www.isr.umd.edu/~caseymj/>

## 5. ゲームやソフトウェアの出典

ゲームやソフトウェアの出典は、参考文献とは別に  
タイトルのアルファベット順に並べる。また、ゲーム  
の製作者・ソフトウェアの出版社 (販売元) 等の住所  
を明記する。英文タイトルは原則として大文字とし、  
ゲーム名・作者名 (出版年)『書名』出版地：出版社・  
住所。の順に表す。

例：

タップ・ロット . 津村俊充・星野欣生(1996)『Creative

Human Relations Vol. 111』東京：プレスタイム .  
東京都港区南青山 4-21-24 荒井ビル .

FISH BANKS, Ltd. Meadwos, D. L., Shannon, D. E., &  
Fiddaman, T. (1987) IPSSR. University of New  
Hampshire, Durham, NH 03824, USA.

SIMSOC (3rd Edition). Gamson, W. A. (1978) New York:  
Free Press. c/o Macmillan, 866 Third Avenue, New York,  
NY 10022, USA.

SPACE. Law-Yone, H. (1993) Faculty of Architecture and  
Town Planning, Technion-Israel Institute of Technology,  
Haifa 32000, ISRAEL.

## **6. その他**

その他，疑義のある場合は，通常広く認められてい  
る書式を使用する．なお，この要領に準拠していない  
と認められる原稿は，受け付けない．